

## 第2学年4組 国語科学習指導案

日 時 平成27年11月18日（水）第3校時

生徒数 38名

場 所 2年4組 教室

授業者 ○○市立○○中学校 ○○ ○○

1 単元名・教材名 きずなを読む ・ 「君は『最後の晚餐』を知っているか」 布施英利

### 2 生徒の実態と本単元の意図

#### (1) 本単元に至るまでの指導の系統

育成すべき国語の能力 【指導事項（読むこと）】	学習内容	単元・教材名 〈実施時期〉	学習活動と関連する 他領域等の指導
・文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えをもつことができる。【1年エ】	・文章の構成や展開 ・表現の特徴	「シカの『落ち穂拾い』」 〈1年10月〉	【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】 ○「ダイコンは大きな根？」 ・文脈の中での語句の意味
・文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広くできる。【1年オ】	・自分の考えをもつこと	「流水と私たちのくらし」 〈1年12月〉	

#### (2) 生徒の実態と本単元の意図

本学級の生徒は、文章の内容を素直に捉えて読むことができる生徒が多い。しかし、範読を聞くなどしても大まかな内容の理解さえ難しい生徒もいる。自力で文章から筆者の考えを読み取ることができるが、自分の考えをもちながら読める生徒はまだ少数である。埼玉県学力・学習状況調査の結果を見ると、読む能力に関する正答率は県平均を0.7ポイント上回っているが、記述式の正答率は4.8ポイントも下回っている。このことから、雰囲気などから何となく読めるものの、主体的に思考しながら読めるほどではないことがわかる。

本単元は、生徒が初めて読む評論の文章である。評論は物事の善し悪しや価値等について筆者の考えを述べた文章であり、評論を読むことは筆者の個性的な価値観などに支えられたものの見方や考え方に触れることになる。筆者が読み手に同調させようとする意識が強いので、親しみやすい平易な表現を用いて構成や叙述にもさまざまな工夫を凝らすことが多い。本単元の場合は、「かっこいい」などの日常的な語と、「解剖学」「遠近法」「明暗法」などの専門的な用語を具体例や図を示しつつ無理なく用いていることにその特徴がみられる。説得力をもたせようとするほど専門的な用語を使うことは避けられなくなるが、こうした点に目を向けることで、表現の仕方次第で文章全体を必要以上に難しくすることなく筆者が感じた対象の魅力を十分に伝えられることを知ることができる。また、対象が絵画であるため、その魅力を知り見方も学ぶことができる。

指導に当たっては、単元を貫く言語活動として、筆者のものの見方や考え方を読み取ることに留まらないよう、根拠を明らかにして自分の言葉で表現する活動を取り入れたい。自分で感じたことが根拠を伴って説得力をもつとき、それは独りよがりではなく、自分の考えとして他者にも認められていくものであることを実感させたい。

### 3 単元の見方

- (1) 評論の文章を読むおもしろさを味わい、ものの見方や考え方を広げようとしている。  
(関心・意欲・態度)
- (2) 伝えたい事柄を明確にして、論の展開や表現の仕方を工夫して書くことができる。(書くこと)
- (3) 表現の仕方や論の展開に着目し、筆者のものの見方や考え方を捉えることができる。  
(読むこと)
- (4) 語句の効果的な使い方について理解を深めることができる。  
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

### 4 単元の評価規準と学習活動に即した評価規準

※ ( ) の部分はAの状況、他はBの状況を示す。

	ア 国語への関心・意欲・態度	ウ 書く能力	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	・ 評論の文章を読むおもしろさを味わい、ものの見方や考え方を広げようとしている。	・ 伝えたい事柄を明確にして、論の展開や表現の仕方を工夫して書いている。	・ 表現の仕方や論の展開に着目し、筆者のものの見方や考え方を捉えている。	・ 語句の効果的な使い方について理解を深めている。
学習活動に即した評価規準	① 評論を読み味わい、(積極的に) 評論の対象の魅力を知らうとしている。 ② (積極的に) 評論の文章を書こうとしている。	① 自分の判断した価値やその根拠を(明確に) 挙げている。 ② 論の展開や表現の仕方を工夫して(わかりやすい) 評論を書いている。	① 表現の仕方や論の展開に着目し、筆者の絵画の読み解き方を(正確に) 理解している。 ② 表現の仕方、論の展開に着目し、筆者の文章について(明確に) 自分の考えをもっている。	① 抽象的な概念を表す語句の(文脈中での意味を捉え、) 効果を理解している。

### 5 指導と評価の計画 (全5時間)

時	主な学習活動	学習内容	評価規準・評価方法
1	○ 学習のねらいをつかみ、評論文について知る。 ○ 本文を通読して感想をもつ。 ○ 感想を交流し、学習課題を立てる。	○ 評論の意味 ○ 評論の特徴 ○ 筆者のものの見方や考え方と自分の考えの対比	アの① エの① オの① ・ 発言内容や態度の観察 ・ ノートの内容の考察
2 3	○ 文章全体を序論、本論、結論に分け、筆者の絵画の読み方を確認する。 ○ 本論の3つの観点について読み取り、まとめる。 ○ 筆者固有の考え方・感じ方を読み取り、まとめる。	○ 文章構成 ○ 論の展開 ○ 抽象的な概念を表す語句の効果 ○ 専門的な用語の効果と示し方 ○ 筆者の表現の仕方 ○ 筆者のものの見方や考え方	アの① エの① オの① ・ 発言内容や態度の観察 ・ 課題の取組の様子や態度の観察 ・ ノートの内容の考察

4 ( 本 時 )	○「最後の晩餐」以外の絵の価値について考える。 ○評論を書く。	○伝えたい事柄とそれに対する自分の考え ○論の展開 ○評論としての表現	アの② ウの①② オの① ・発言内容や態度の観察 ・課題の取組の様子や態度の観察 ・原稿の内容の考察
5	○評論を読み合い、評価し合う。 ○評論の意味と読み方を確認する。 ○学習を振り返る。	○論の展開、表現の工夫 ○評論の意味 ○評論の読み方 ○評論の文章に対する自分の考え ○目標に対する自己評価	アの① エの② オの① ・発言内容や態度の観察 ・課題の取組の様子や態度の観察 ・ノートの内容の考察

## 6 本時の学習活動 (4 / 5時)

### (1) 目標

- ・既習の評論文の表現を活用して、評論の文章を書こうとしている。(関心・意欲・態度)
- ・自分の判断した価値や根拠を明確にし、論の展開や表現の仕方を工夫して書いている。(書くこと)
- ・用語の効果を理解し、対象の魅力の説明に用いることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

### (2) 展開

学 習 活 動	学 習 内 容	指導と評価の創意工夫
1 前時の学習を振り返る。【全体】	○表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班で書いた評論を全員で読み合い、優れた文章を選ぶことを確認する。</li> <li>・各班に2種類ずつ写真を渡す。</li> <li>・マッピングで発想を広げさせる。</li> <li>・(1)を元に対象に対する評価とその根拠を、マッピングしたものに印を付ける等してまとめさせる。</li> <li>・根拠は2つ程度に絞らせ、簡条書きで書き留めさせる。</li> </ul>
2 学習課題を確認する。【全体】	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">           学習課題            自分の見出した価値を評論で伝えよう。         </div>	
3 対象の価値と、その根拠を考える。 (1) 評論の対象となる写真を見て思い浮かんだ言葉を書き留める。【個人】 (2) その言葉と対象を結びつける根拠を考える。【個人】 (3) (1)(2)を絞り込む。【班】	○伝えたい事柄とそれに対する自分の考え ・自分が判断した価値とその根拠 ○論の展開	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <b>評価場面1</b>            〈具体的評価規準〉アの② ウの① オの①            〈評価方法〉・課題の取組や態度の観察 ・ノートの内容の考察            〈手立て〉・2種類の写真のうちいずれか取り組みやすい方から取り組ませる。         </div>		
4 評論を書く。【小グループ】	○評論としての表現 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">           ◆参考にする表現の仕方         </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・字数は200字程度を目安とする。</li> <li>・適宜、グループ内で助言し合えるよう配</li> </ul>

- ・平易な語を用いた感動の表現
- ・文末表現（語りかけ、断定的表現、体言止め）
- ・具体的描写による説明
- ・たとえの表現
- ・一文の長さ（短い文の多用）

慮して取り組ませる。  
 ・活動時間を意識させ、時間内にひと通り書き終えられるようにさせる。

評価場面 2

〈具体の評価規準〉

アの② ウの② オの①

〈評価方法〉

- ・課題の取組や態度の観察
  - ・原稿の内容の考察
- 〈手立て〉
- ・3 (3)で書き出した根拠を確認し、論の展開を意識させ、文章の全体を見失わないようにさせる。
  - ・根拠を分かりやすく伝えられるよう、たとえや具体的描写による説明も入れるよう助言する。

◆ 評論の例



このあひるの写真は「激しい」。  
 とにかく巨大だ。大きいものが大きいのは実はそれほど怖く感じないことが多い。しかしその逆はどうだろうか。大きい虫、大きい線香花火……。通常でのひら大のあひるが巨大であることは、私たちを動揺させるのだ。さらに、街の景観に溶け込んでいない。四角い灰色の建物に対して、丸い黄色のあひる。嫌でも目につき、気になつてしまう。顔や形に似合わず、存在の主張がとてつもないのだ。

5 本時のまとめ  
 をする。【全体】

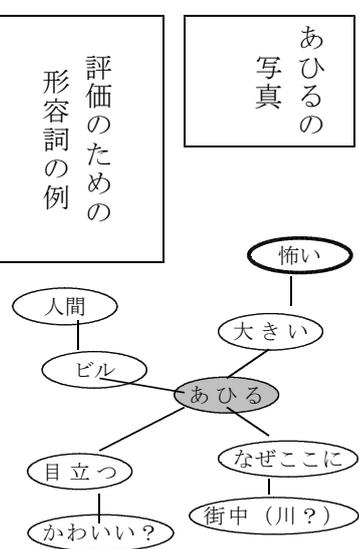
○本時の学習内容の確認  
 ○次時の学習内容の予告

・学習内容を振り返るとともに、次時は書いた文章を全員で読み合うことを確認する。

(3) 板書計画

- 文末表現
  - ・語りかけ「描くことができたのだろうか。」
  - ・体言止め「この絵の主人公は、キリスト。」
  - ・断定的表現「描きたかったのは『それ』なのだ。」
- 具体的描写による説明
  - ・手のポーズ、顔の表情、容貌
  - ・天井、壁のタピスリー、テーブルクロス格子
- たとえの表現
  - ・「まるで手のポーズの見本帳である。」
- 一文の長さ（短い文）
  - ・「それが名画というものなのか。素晴らしい絵の前に立つと、理屈でなく、まず衝撃がやってくる。それから、じっくりと分析する。分析もまた、名画を味わう楽しみの一つである。」

表現の仕方  
 ①巨大だとかわいいとは言いがたくなる。  
 ②街に対して違和感がある。



君は「最後の晚餐」を知っているか  
 布施英利  
 自分の見出した価値を評論で伝えよう。

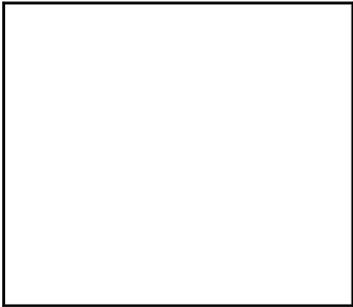
班で判断した価値「激しい」  
 班で挙げた根拠

(4) 評論の対象と作品例

この写真の富士山は「強い」。

まず、山肌が赤い。赤や強さを象徴する色だ。炎、血、闘牛士のマント、戦隊シリーズのリーダー……。赤色というだけで、強そうに見えるものだ。

次に、山肌が険しい。画面左から光を受けて、地形の凹凸がくつきりと浮かび上がっている。植物もほとんど生えていないだろう。このように、人を簡単には寄せ付けないところに強さを感じられる。

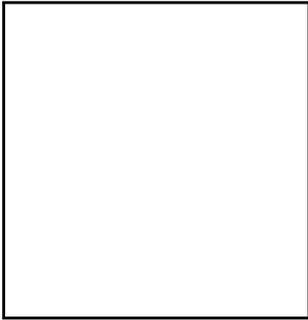


この写真は「美しい」。

もちろん富士も光も美しいものだ。しかし、この写真ではこれらの美しさがより引き立てられている。

その根拠の一つは、稜線も光線も左右対象であることだ。蝶の標本を想像してみてもいい。触角や羽の片方が傾いたり欠けたりしたらその美しさは半減して見えるだろう。

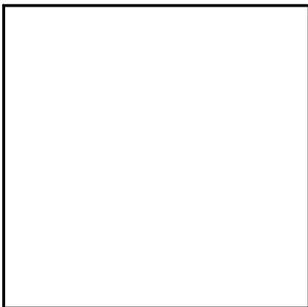
もう一つの根拠は、色が少ないことである。空の色も山肌の色もすっきりとしていて形の美しさが際立っているからだ。



この写真の猫は「かっこいい」。写真からは映画のワンシーンのような雰囲気さえ感じられる。

まず、目が合う。こちらを見つめている。表情は意外と冷静に見える。もし声を当てるなら、渋い男性の声が似合う気がする。

それから、体勢に目が奪われる。まるで映画か何かのポスターの中で銃を手にした俳優のような体勢だ。大きく「く」の字に曲がった体。そんな一瞬の体勢は、写真や絵の中でしか見られない。



この犬の写真は「切ない」。

第一に、眼が切ない。犬は瞳が黒目がちだ。目元も優しいのが多い。この写真の犬も潤んだ瞳とやや下がった目尻をしている。しかも目尻から真横に伸びる線がまぶたを重そうに見せ、切なさを助長している。

第二に、垂れ下がる耳が切ない。枯れ葉もしくも上向きより下向きの方が切なく見える。動物の耳も、上向きに比べ下向きの方が、優しくときに悲しく見えるものだ。

